

第1ステージ

ドイツ・オーストリア紀行

無伴奏混声合唱曲

作曲 F. Mendelssohn

「6つの歌 Op.48」より

No.4 Lerchengesang (おお、ひばり)

作詩 L. Uhland

「6つの歌 Op.41」より

No.1 Im Walde (森で)

作詩 A. Platen

《Drei Volkslieder (3つの民謡)》

作詩 H. Heine

No.2 Entflieh' mit mir (私と逃げよう)

No.3 Es fiel ein Reif (霜が降りた)

No.4 Auf ihrem Grab (墓の上で)

No.5 Mailied (五月の歌)

作詩 L. Hölty

源田俊一郎編曲による「ホームソングメドレー」《ドイツ・オーストリア編》

ローレライ

訳詩：近藤朔風

作曲：ジルヒャー

野ばら

訳詩：近藤朔風

作曲：シューベルト、
ウェルナー

ウィーンわが夢のまち

訳詩：あらかわひろし

作曲：スーチンスキー

指揮：韓 庚姫

ピアノ：岡田 典子

「ドイツ・オーストリア紀行」と題しましたこのステージ。まず前半にドイツ・ロマン派の作曲家メンデルスゾーンの無伴奏合唱曲を演奏いたします。とりわけ「森で」や《3つの民謡》の3曲は、かつらぎ会合唱団の母体でもあります住吉高校音楽部発足（1950年）当時より度々歌われていたそうで、創団20周年記念演奏会の演目を決めるにあたり、団の原点とも言うべきこの曲を含めた選曲となりました。メンデルスゾーンは合唱に造詣の深いツェルターに師事していた為、優れた合唱作品を数多く残し、特に混声合唱曲集「6つの歌」のOp.41・Op.48・Op.59・Op.88や「4つの歌」Op.100の計28曲については、戸外で歌われることを想定してすべて無伴奏で書かれています。流麗なメロディー、変化に富むハーモニー、活気に満ちたリズム、いずれの曲も日本でも長く愛唱されてきた曲です。

後半はピアノも加わり、同じドイツ・オーストリアの地にちなんだ4曲のメドレーを演奏いたします。まずはライン川の伝説を基にしたハイネの詩にジルヒャーが作曲した有名な「ローレライ」。そして1815年にシューベルト、1829年にウェルナーが作曲して共に親しまれている名曲「野ばら」。この詩はドイツの民謡「荒野のばら」をもとに1771年に吟遊詩人ゲーテが吟じたものですが、当時彼が交際していた少女との話を表したのではないかとされています。そして最後に「ウィーンわが夢のまち」。作曲のスーチンスキーは「王宮顧問官」という公務員を定年退官したのちに本格的に作曲家として活動。晩年はオーストリア作曲家協会の理事長まで務めました。1914年頃に作られたウィーンを賛美するノスタルジックなこの歌曲は今でもウィーン市民や世界中で歌われ愛されています。

第2ステージ

混声合唱のための組曲「蔵王」（改訂新版）

作詩：尾崎左永子

作曲：佐藤 眞

- I 蔵王讃歌
- II 投げよう林檎を
- III 苔の花
- IV どっこ沼
- V おはなし
- VI 雪むすめ
- VII 吹雪
- VIII 樹氷林
- IX 早春

指揮：阿部 良行

ピアノ：岡田 典子

みちのくを ふたわけざまに そびえたまふ
蔵王の山の 雲の中に立つ 齋藤茂吉

この組曲の楽譜を開くと先ずこの文字が目飛び込んでくる。日本最大奥羽山脈の中心、宮城県と山形県を分けて聳え立つ、凛々しくも美しい蔵王連峰の山々だ。

昭和36年、当時まだ東京芸大大学院生だった佐藤眞は、第16回文部省芸術祭に参加するためにこの「蔵王」を選んだ。そのころ歌人から放送作家に転身していた二十代の尾崎左永子に作詞を依頼し、蔵王の印象を9篇の詩にまとめてもらった。このようにして詩・曲共に若さと瑞々しさに満ち溢れる合唱曲が誕生した。残念ながら受賞は逸したが「一般の人々に愛され広く歌ってもらえる歌い易い曲を」という佐藤の望み通り、その雄大な構成と彩り豊かな美しいメロディはまたたく間に世の合唱愛好者の心を捉え、大人気曲となった。

今回私たちが「原点への回帰」としてプログラムにこの曲を選んだことに共感していただける方は決して少なくないと思う。今回「蔵王と一緒に歌いませんか？」と呼びかけたところ、大勢の皆さんが参加して下さった。一人でも多くの仲間たちと声を合わせて歌う

「蔵王」が、ひときわ素晴らしく「そびえたまふ」演奏となることを願ってやまない。

～～ 休 憩 ～～

第3ステージ

かつらぎ会合唱団版「オペラ座の怪人」(初演)

日本語詩：浅利慶太

作曲：Andrew Lloyd Webber

編曲：石若雅弥

- 1 Think of Me
- 2 Angel of Music
- 3 The Phantom of the Opera
- 4 Prima Donna
- 5 The Music of the Night
- 6 All I Ask of You
- 7 Masquerade

指揮：石若 雅弥(客演)

キーボード：蒲生 脩人(客演)

ピアノ：岡田 典子

演出：奥野 芙紀ほか

衣装：寺田 純子ほか

おそらく全世界で1億3000万人以上が観たであろうミュージカル「オペラ座の怪人」は、フランスの作家ガストン・ルルーが書いた怪奇小説「オペラ座の怪人」を基にして1986年に製作された。

19世紀末のパリ・オペラ座の地下。優れた音楽才能を持ちながら、その醜い容姿のために隠れ棲む怪人「ファントム」と呼ばれる男。コーラスガールのクリスティーヌに歌手としての素養を見出し、巧みに近づき彼女に特別レッスンを施す。クリスティーヌをプリマドンナに育て上げることで、世間を見返してやろうという自分の野望を果たすためだ。だが、クリスティーヌはファントムの強引なやり方に次第に恐怖を覚え、幼馴染の男友達ラウルに助けを求めるようになる。

原作に「愛」の要素を加味した脚本に豪華で美しい曲を散りばめて名作を創り上げたアンドリュー・ロイド・ウェッバーは、まるでファントムさながらに、妻であったサラ・ブライトマンを主役のクリスティーヌに強引に抜擢しスターダムにのし上げた。しかしその後夫婦としては破局に至ったことも話題となった。

かつらぎ会合唱団はこのミュージカルを第1回定期演奏会で取り上げ好評を博した。この度「原点への回帰」の一環として再度この曲を歌うが、前回と違うのは、構成・編曲を現代の売れっ子作曲家石若雅弥氏に依頼したことだ。彼の若い感性と抜群の編曲力で、見事にまとめ上げてくれた。振り付けは若手団員が担当した。しかしながら、平均年齢がどんどん上がる一方の我が団において、暗譜して振りを覚えるという作業は困難を極めた。

はてさて、本日の仕上がり具合は如何に？